

N G O 外務省定期協議会 援助効果意見交換会での議題案
NGO 側からの提案

2010 年 6 月 16 日

NGO 側事務局 (JANIC)

- 1 . 回数：意見交換会の回数は、1 年間に 3 回程度で、合計 5-6 回ほどを想定
- 2 . 運営方法：事前のペーパー交換方式とし、事前に可能な情報提供はできるだけ行う。

議題案

回数	議題案	備考
第 2 回 7 月 2 日	「援助効果議論を巡る論点整理：NGO 側、政府側、両者からの発議」 ・ NGO 側：AAA を読み解き、その重点を提示。 ・ 政府側：AAA に対するこれまでとこれからの対応を説明。	2008 年のアクラ HLF で採択された AAA が具体的に何を求めているのか NGO 側の視点からの解釈と、日本政府の AAA への対応について示し、両者がそれについて意見交換する。
第 3 回 秋頃	「DAC ピア・レビューを受けた課題：NGO 側、政府側、両者からの発議」 ・ ピア・レビューに設けられる援助効果に関する章について特に議論。 (可能な限り局長及び政務三役いずれかの同席を希望。)	夏頃に一般公開される予定のピア・レビューの援助効果に関する内容について、政府側の見解と今後の対応について、又 NGO 側見解についてそれぞれプレゼンして意見交換する。
第 4 回 1 月頃	「援助効果を高める方法論 (1) : NGO 側からの発議」 ・ 援助効果議論の既存の課題 (アンタイド、PBAs、民主的オーナーシップ等) について。 ・ NGO の役割、NGO の開発効果議論、Enabling Environment 等について。 ・ MDGs 早期実現に向けた ODA の効果向上の可能性について。	第 1 回の議論で扱われたものは適宜省略することも可とする。 MDGs に関しては、地球規模課題総括課も含め、より広い視点での議論を希望。
第 5 回 4 月頃	「援助効果を高める方法論 (2) : 政府側からの発議」 ・ 援助実施手段のあり方の見直しについて説明。 ・ 途上国の能力向上に向けた支援のあり方。 ・ ODA のあり方の見直しを踏まえたうえでの、JICA の役割。 ・ 幅広い開発のアクター (南南協力含む) 。	同上。
第 6 回 7 月頃	予備：「ソウル HLF とポスト・ソウルへの議論展開：日本が世界に貢献できる援助効果」 ・ 第 1 回から 4 回までの意見交換会のまとめと、その後の議論展開の展望。	ソウル HLF の中心的な議題が明らかになっていけば、それについて議論することを想定。
第 7 回 10 月頃	パブリックフォーラム？ ・ ODA 政策策定への市民参加、情報公開のあり方について。 ・ 日本及び途上国の NGO 支援のあり方 (enabling environment) について。 ・ ソウル HLF に向けて、日本が世界に貢献すべき援助効果の向上とは具体的に何か？既に実施可能なこと、国内法の調整が必要なこと？ ・ 新興ドナーに対して日本が示すべき姿勢とは？	政務三役を含めて、幅広く議論する機会を目指す。

以上